

水野 アキエさん(92) 西

父、松三郎さんは、秋田県北秋田郡阿仁合村(あにあむら) 現北秋田市の鉾山で働く鉾山技師でした。1930(昭和5)年、鉾山の閉山で小学3年の時に知人を頼って両親とともに美瑛町俵真布に。

5人兄妹の二女で、尋常小学校に転入後間もなく登校できなくなりました。秋田弁でいじめを受けたそうです。

「『嫌』は『ンやんだ』と言うんだよ。それで小突かれたり馬鹿にされたり、怖くて学校に行けなかった。親がたびたび学校に送ってくれたんだけど、すぐ帰ってくるの。5年生までほとんど行かなかった」。

青春の思い出は、15歳で青年団に入ったころ。「勇気を出して仲間に入れてもらって、青年団でお芝居をするといって稽古をしたり、運動会に出たり。お友達もできて楽しかった」。

1943(昭和18)年、21歳で3歳上の梅松さん(89歳で逝去)と結婚。6人家族の



嫁ぎ先で女の子5人を生み育て、大家族の一家を支えました。

夫の梅松さんは規模拡大を求めて美瑛町俵真布から東川町東10号に移転、経営意欲にあふれた農家でした。「うちが東川の農家で一番奥だった。米100俵を取りたいと思って頑張ったの」。

頑丈な体格で「客土して馬に蹴られたり、肩を骨折して1年間も入院したり、足を骨折したり。でも不思議なことに治るんだよ」。

無我夢中で働きました。「屋台っこ(赤ん坊用の屋根付きの小屋)に2人くらい入れたまんまで、気づいたらひっくり返っていたり。むちゃくちゃだった。でもみんな病氣したことはないの。丈夫に育ってくれたの」。

離農後70歳まで、農作業手伝いのかたわら、老人保健施設・ひだまりの里で10年以上ボランティアを続けました。今は旭川市内に住む姉妹3人が季節の山野草や料理などを持って自宅を足繁く訪れてくれます。

「つらいこともいっぱいあったけれど、この年までみんなのお世話になりながら長生きしてありがたいこと」と感謝を忘れません。

俳句

一服の新茶で愚痴は何処へやら
湯上りの火照りのあとの新茶かな
春の花和名の読みのおもしろや
廃線の駅も華やぐ昇り藤
子の街を見おろす駅舎夏つばめ
新茶飲む明治の父は無言なり
海を向く揺ぎて育つなでしこよ
おままごとぶどうにみたてのぼり藤
夕風に甘くにほふや藤の花
慈雨来たる座敷に並ぶ足の裏
放られて勝手に満開夏水仙
新茶来る近況添えし富士裾野
ホタル茶碗の白清々し新茶の香
ホク酔ひのモンシロ渡る広野かな
新茶には湯かげんしかと確かめり
雛鳥の産声祝う新茶かな
知らぬ間にルピナス伸びて花畑
星のよう夏の夜空に最終便

高瀬潤 石澤清宏 松山蓉子 三島智郁 若田郁 本田咲 佐々木りえ 山内みゆ 長谷川きみゑ 小林ろば 高橋公花 杉山ひろのり 保科なほ 徳光吐苦 杉山りつ こばやし 星来 横田則子 若田久

